

事務事業チェックシート

事務事業No 事業名
409 畜産振興事業

[長期総合計画]

分野別目標	1	安定した雇用を生み出す産業が元気なまち
政策	3	農林水産業の活性化
施策	1	農林業の振興
取組方針	3	豊かな産地の育成

事業種別	継続	
事業期間	H19 ~	
事業実施の根拠法令		
関連個別計画		
担当課・担当課長 (Tel)	農林水産課	太田 克弘(435-1049)
関連課		

[事業基本情報]

事業区分(1)	事業経費	○	管理経費	
	その他			
事業区分(2)	自治事務		法定受託事務	○
	その他			
会計・予算区分	会計	一般会計		
	款	農林水産業費		
	項	農林緑花費		
	目	畜産業費		
	大事業	畜産振興事業		
事項	畜産振興事業			

1 事業概要及び実施内容

事業概要	事業目的 (「誰・何」をどういう状態にする) ための事業か)	事業内容				
	畜産農家が、安定した経営を継続させるための事業	○肉用子牛生産者補助金制度・・・肉用子牛の平均売買価格が保証基準価格を下回った場合に、交付する補助金の事務手続き。 ○肉用牛肥育経営安定特別対策事業・・・肉用牛肥育1頭当たりの粗収益が生産費を下回った場合に交付する補填金の事務手続き。 ○肉用牛繁殖経営支援事業・・・肉用子牛の平均売買価格が発動基準を下回った場合に、交付する補助金の事務手続き。 ○中核的担い手育成増頭推進事業・・・計画的に高能力の繁殖雌牛を増頭した場合に、増頭実績に応じ交付する奨励金の事務手続き。				
実施内容		平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
		・肉用子牛生産補助金制度参加農家3軒 ・肉用肥育経営安定対策事業参加農家2軒 ・肉用牛繁殖経営支援事業参加農家2軒 ・中核的担い手育成増頭推進事業参加農家1軒	・肉用子牛生産補助金制度参加農家3軒 ・肉用肥育経営安定対策事業参加農家2軒 ・肉用牛繁殖経営支援事業参加農家2軒 ・中核的担い手育成増頭推進事業参加農家1軒	・肉用子牛生産補助金制度参加農家3軒 ・肉用肥育経営安定対策事業参加農家2軒 ・肉用牛繁殖経営支援事業参加農家2軒 ・中核的担い手育成増頭推進事業参加農家1軒	・肉用子牛生産補助金制度参加農家3軒 ・肉用肥育経営安定対策事業参加農家2軒 ・肉用牛繁殖経営支援事業参加農家2軒 ・中核的担い手育成増頭推進事業参加農家1軒	・肉用子牛生産補助金制度参加農家3軒 ・肉用肥育経営安定対策事業参加農家2軒 ・肉用牛繁殖経営支援事業参加農家2軒 ・中核的担い手育成増頭推進事業参加農家1軒

2 事業コスト

事業費等 (千円)	平成26年度		平成27年度		平成28年度		平成29年度		平成30年度	
	当初予算	決算	当初予算	決算	当初予算	決算	当初予算	決算	計画	決算
事業費	146	97	146	121	120	117	287		287	
伸び率 (%)	-	-	43.1%	24.7%	▲17.8%	▲3.3%	139.2%	▲100.0%	0.0%	-
人件費	3,812	3,781	3,812	1,564	3,812	1,810	1,921			
正規職員	3,812	3,781	3,812	1,564	3,812	1,810	1,921			
正規職員以外	0	0	0	0	0	0	0			
小計	3,812	3,781	3,812	1,564	3,812	1,810	1,921			
国庫支出金										
県支出金							45			
市債										
その他	20	16	20	11	20	12	20			
一般財源 (税等)	126	81	126	110	100	105	222		222	
所要人数 (人)	0.51	0.50	0.51	0.21	0.51	0.23	0.24			
正規職員	0.51	0.50	0.51	0.21	0.51	0.23	0.24			
正規職員以外	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0	0			
主な予算内訳	負担金、補助及び交付金 55千円									

3 目標及び実績

活動指標	指標名	単位		平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
				目標値	実績値	達成度 (%)	目標値	実績値
成果指標	肉用牛肥育経営安定対策事業参加率 (肉用牛肥育経営農家軒数/事業参加農家軒数)	%	目標値	100	100	100	100	100
			実績値	100	100	100	100	100
			達成度 (%)	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
	肥育牛生産者収益低下緊急対策事業 (肉用牛肥育経営農家軒数/事業参加農家軒数)	%	目標値	100	100	100	100	100
			実績値	100	100	100	100	100
			達成度 (%)	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

4 事業の評価

評価基準					
[妥当性]事業のニーズはあるか		増加している	○	横ばい	減少している
[妥当性]事業手段は妥当か	○	現行の手段でよい		一部見直しが必要	見直しが必要
[妥当性]官民の役割は妥当か	○	市が行うべき		他の主体との協働も可能	市が行う必要性は薄れている
[妥当性]緊急的に取り組む必要はあるか		急いで取り組む		中長期的に取り組む	○ 緊急性は薄い
[有効性]更に効果が期待できるか		できる	○	あまりできない	できない
[有効性]成果目標はどの程度達成しているか		達成している(90%以上)	○	おおむね達成(70~90%未満)	達成していない(70%未満)
[有効性]上位施策への貢献度		重要かつ高い貢献度がある	○	一定の貢献度がある	貢献度は低い
[効率性]事業費を抑制できるか	○	できない		制約はあるが可能性はある	できる
[効率性]受益者負担の見直し		適正		負担は求められない	見直しが必要

5 今後の方向性 (担当課評価)

事業内容の方向性	充実	/			
	現状維持	/		○	/
	縮小	/		/	/
	廃止	/		/	/
		ゼロ	縮小	現状維持	拡大
コスト投入の方向性					

担当課評価の根拠	家畜の販売価格の低下や死亡等は、畜産農家の経営に大きなダメージを与えるため、経営安定のための施策を活用することの重要性は大きい。
見直し・改善内容	